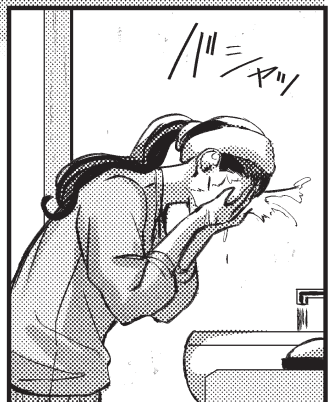
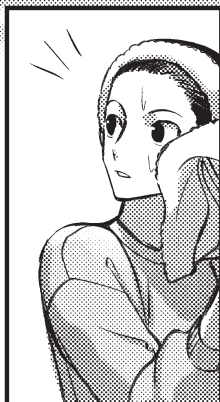
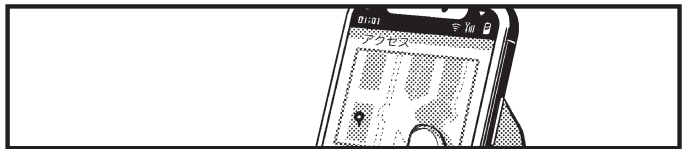




こえるん
コミュニケーション
サポートアプリ
★★★★

- 音声を自動で文章化
- スマートフォンに向かってしゃべるだけ！
- 入力された文章を音声に変換





「ドアノック
光センサー」
どう？

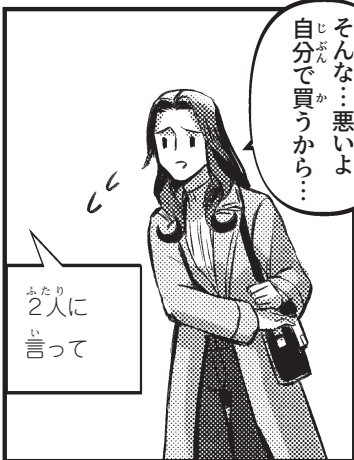
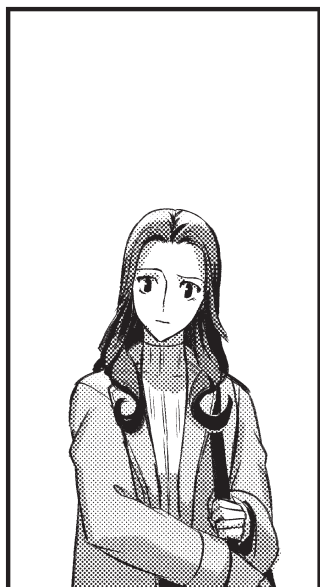


「みんなに
お金もらってる」



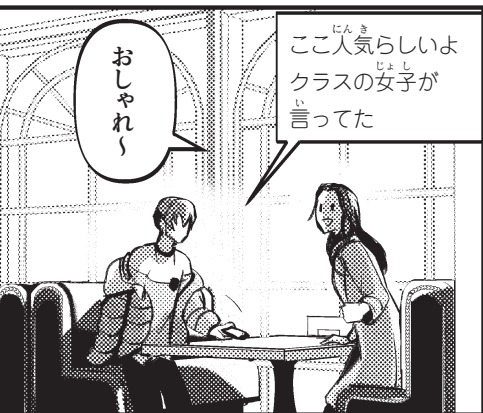
「ドアの内側に取り付ければ
外側からのノック振動で光る
誰か来たってわかる」

「えー便利！
買う！」



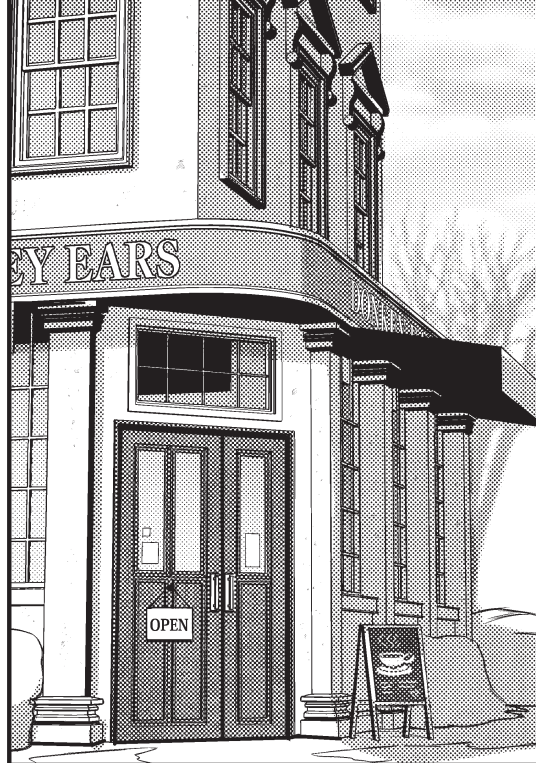
「ふたり
に
言って」

「そんな…悪いよ
自分で買うから…」



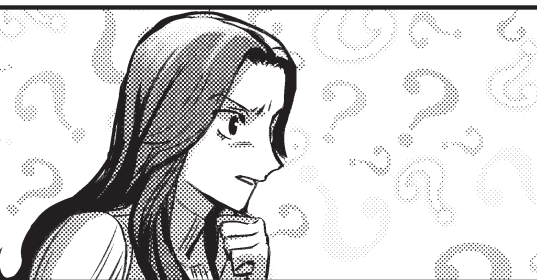
おしやれ〜

ここ人気らしいよ
クラスの女子が
言ってた



えっ…

どんな音楽
かかってる？



えーと…

聞いたことは
あんだよな…

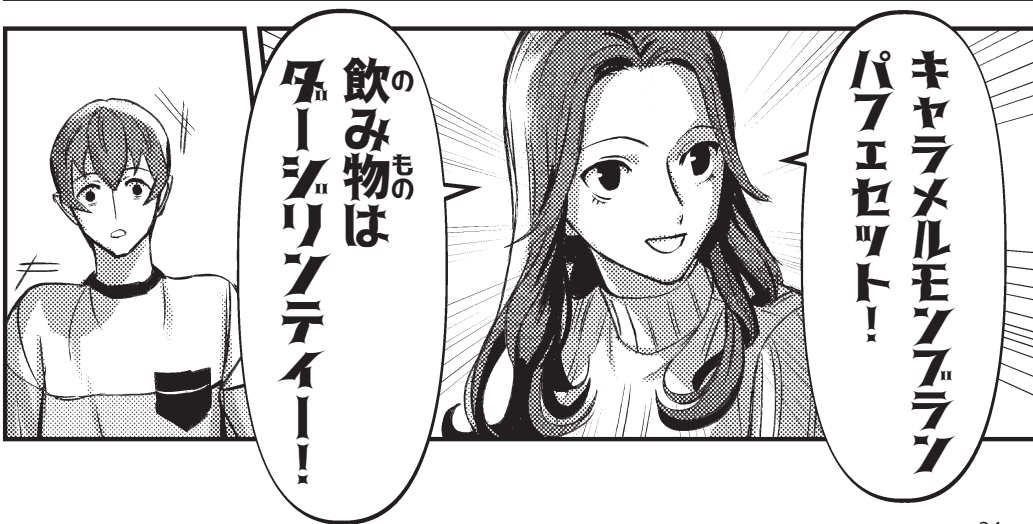
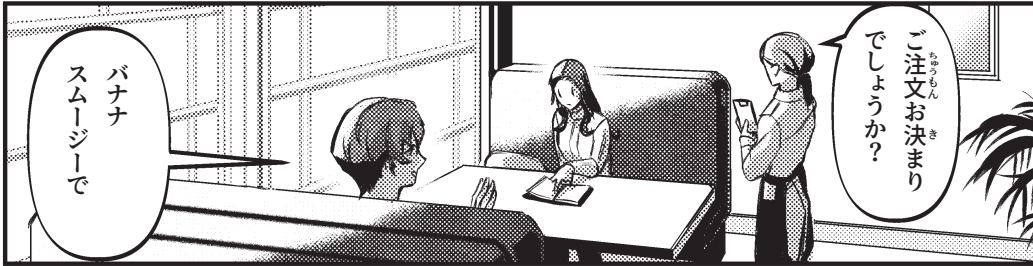
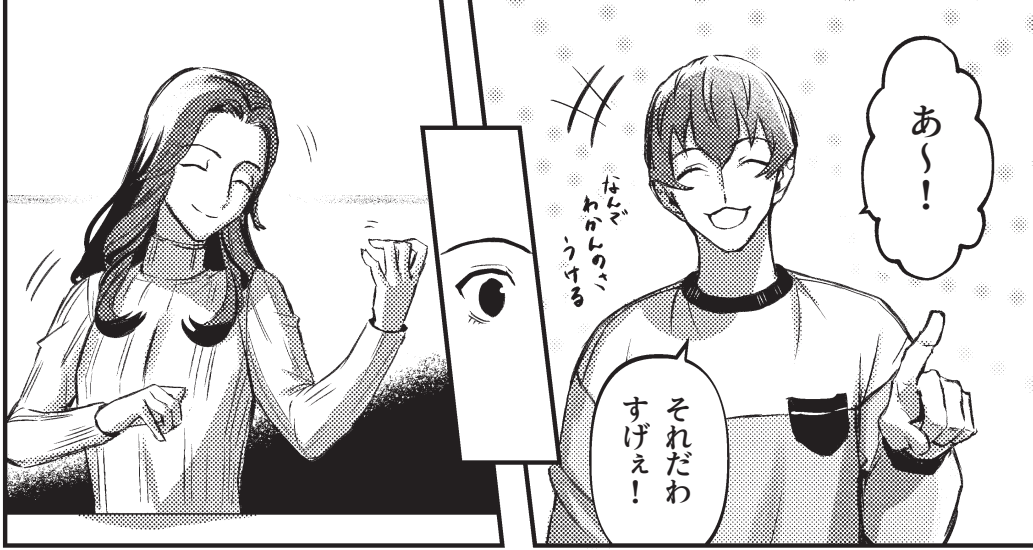
あ！

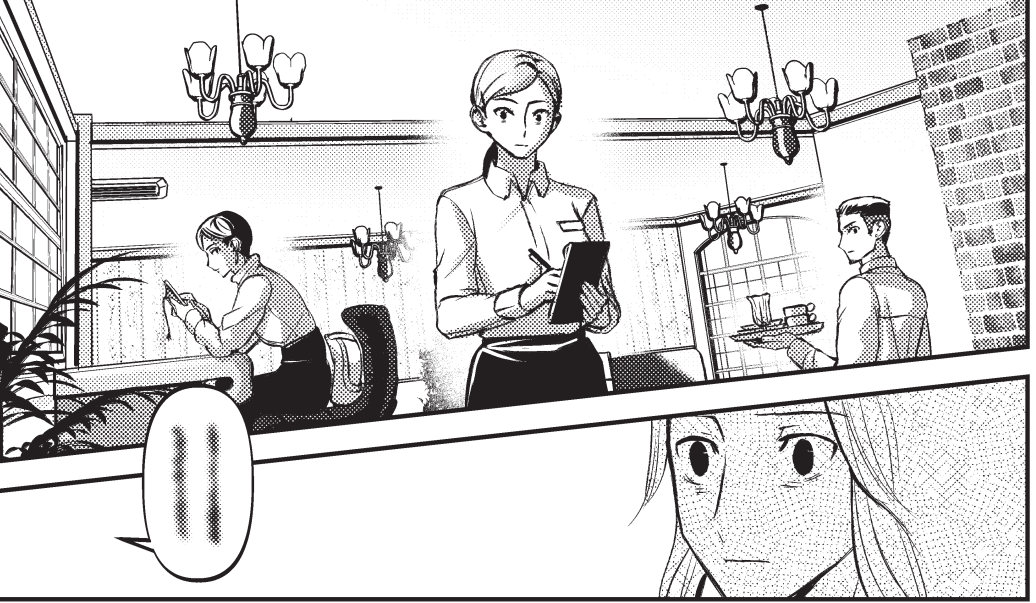


テー
テレー

パガニーニの
『妖精の踊り』…？

ねえ 何かしひ きよく
カヤ姉が昔弾いてた曲
テレーッテレー！テレー！
テレーッテレー！テレー！



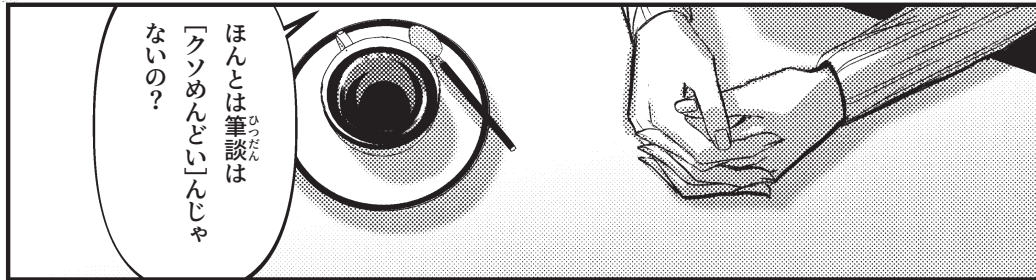
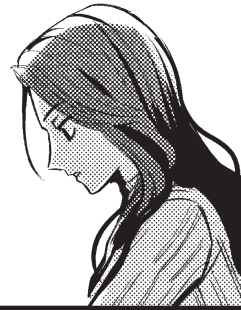




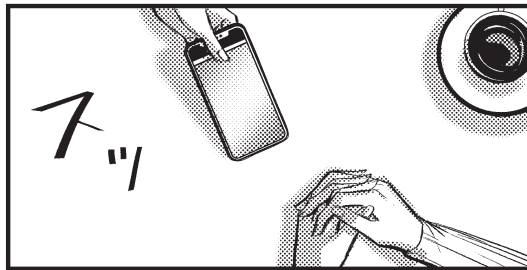
文字^{もじ}だけじゃ
わからない

慰^{なぐさ}める感じ^{かんじ}の
「いって」か
呆^{あき}れた感じ^{かんじ}の
「いって」か

憲^{けん}太^た
無^む表^{ひょう}情^{じょう}だから
わ^わか^かり^りづ^らい



ほんとは筆^{ひつ}談^{だん}は
「クソめんどい」んじや
ないの？



フッ



15:10

✪ ㊚ ㊛

メモ - 6

最終更新：昨日

カヤ^{ねえ}姉^{あね}へ

カヤ^{ねえ}姉^{あね}を見て^みて^き気づ^きいた^きただ^きけど、
よ^{あやま}く^{あやま}謝^{あやま}る^{あやま}よ^{あやま}ね。

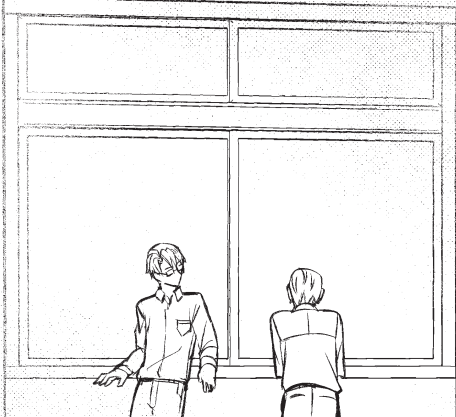
オレ、カヤ^{ねえ}姉^{あやま}が^{あやま}謝^{あやま}ってるとモヤツとする。
謝^{あやま}ること^{あやま}じゃ^{あやま}ない^{あやま}と思う。

「^{なに}何ができない人^{ひと}をできる人^{ひと}と
おなじくらい^{こま}困らない^{かんじょう}環境^{かんじょう}へと
まわ
周りがサポートすべきなのは

だれ^{だれ}にでもそんな生活^{せいかつ}を送る^{おく}権利^{けんり}がある^{ある}からだ
それを無視^{むし}するのは正義^{せいぎ}じゃない」

その時^{とき}のオレは
「とにかく人^{ひと}に親切^{しんせつ}にしろ」って
強^{きやう}制^{せい}される^{される}のにうざり^{うざり}だったから、
ひとだす^{ひとだす}が好きな^す奴^{やつ}に任せ^{まか}とく^{とく}の^のが
てき^{てき}で^でき^きし^しょ
適材^{しつざい}適所^{しつじょ}でい^いだ^だろ^ろと思^{おも}って^た。

き
聞^きこえない^{こえない}のはカヤ姉^{ねえ}のせい^{せい}じゃないし、
ぶ^ぶち^ちょう
部長^{ぶちやう}が昔^{むかし}言^いって^たんだ^だよね。



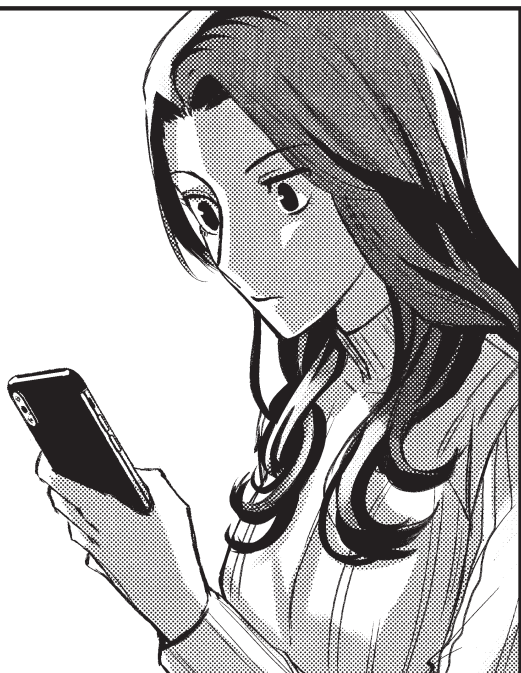
けどカヤ姉^{ねえ}が耳^{みみ}のことで謝^{あやま}るたび
なんでカヤ姉^{ねえ}が困^{こま}らない^{かんじょう}環境^{かんじょう}じゃないんだ？
オレらが何^{なに}も困^{こま}らない^{かん}から気^きにしてないんだろ？
つまりオレらの無関心^{むかんしん}が環境^{かんじょう}を作^{つく}ってるよな？
って^き気づ^きいた。

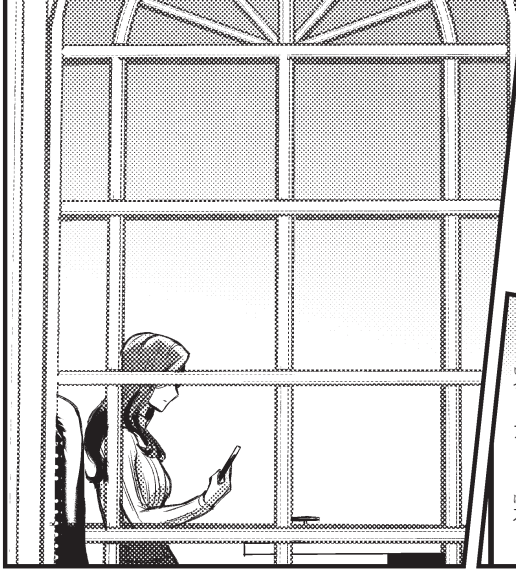


む^むかし
昔^{むかし}ひどいこと言^いったの
ずっと謝^{あやま}りたかった。

おぼ
覚えて^{おぼ}る？
カヤ姉^{ねえ}が高校^{こうこう}卒業^{そつぎやう}してすぐ
いえい
家^{いえ}行^いった^{とき}時の^{とき}。

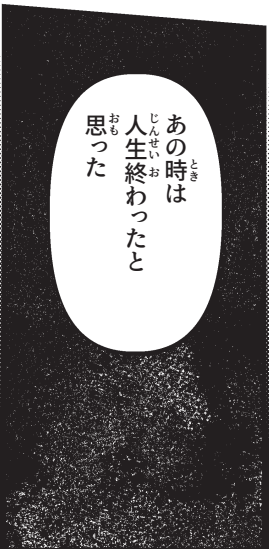
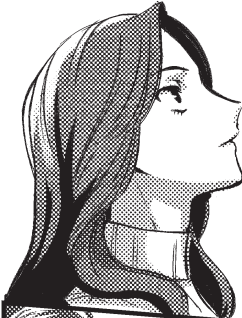
む^むし
無視^{むし}された^{された}からってすねて
む^むし
無神^{むしん}経^{けい}だった。





きこえない困難や辛さを
 なにも知らないのに
 のり越えられるとか
 わかった風な口きいた。

いまのカヤ姉が肩身狭そうなもの
 オレの態度があったからだと思うし、
 ほんとうにごめん。

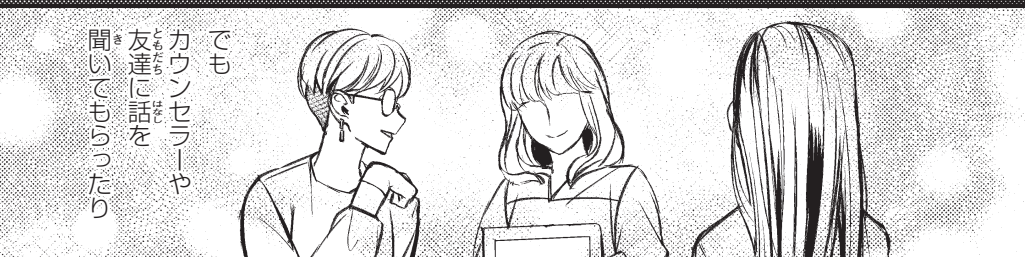


友達ほみんな
私にすすんだのに
盲犬に

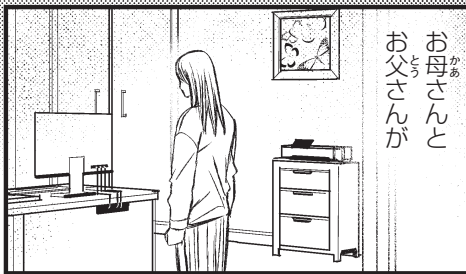


私は部屋で
転がってるだけ

消えたかった



でも
カウンセラーや
友達に話を
聞いてもらったり



お母さんと
お父さんが

ゆつくり少しずつ
前向きになれた

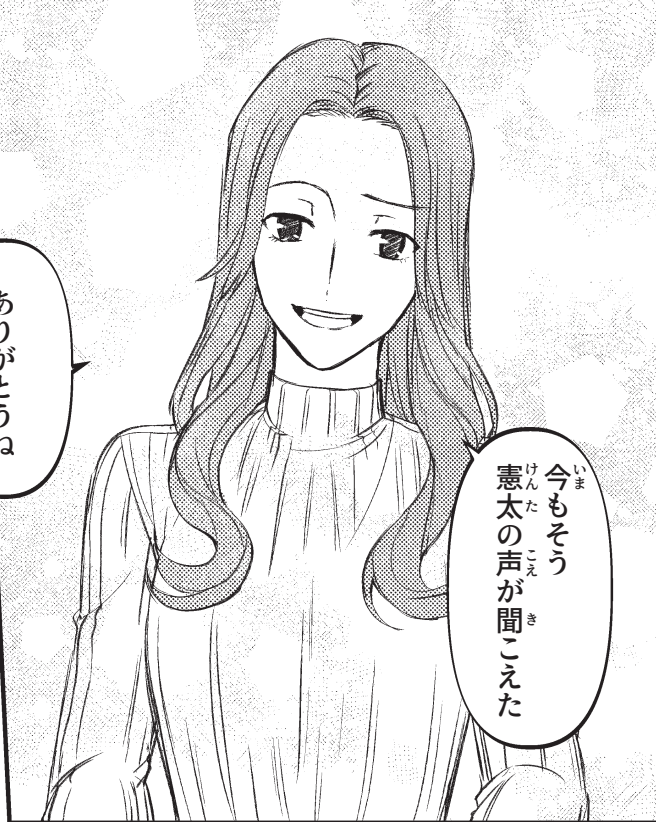


中途失聴者の体験談や
仕事をどうしてるのか
たくさん調べてくれて

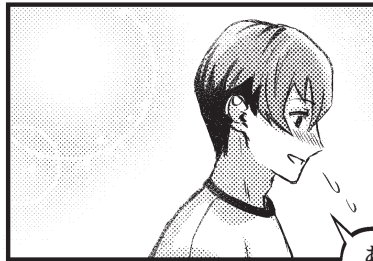
音は聞こえないけど
みんなの想いは
聞こえたの



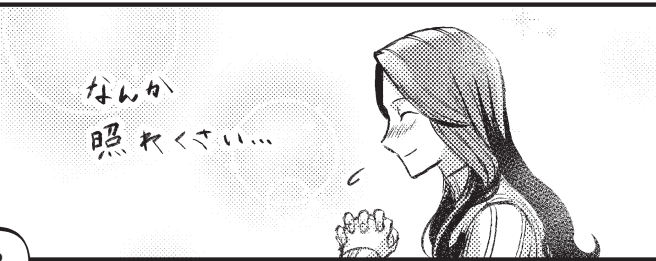
ありがとうね



いま
今もそう
けんた
こえ
き
憲太の
声が
聞こえた



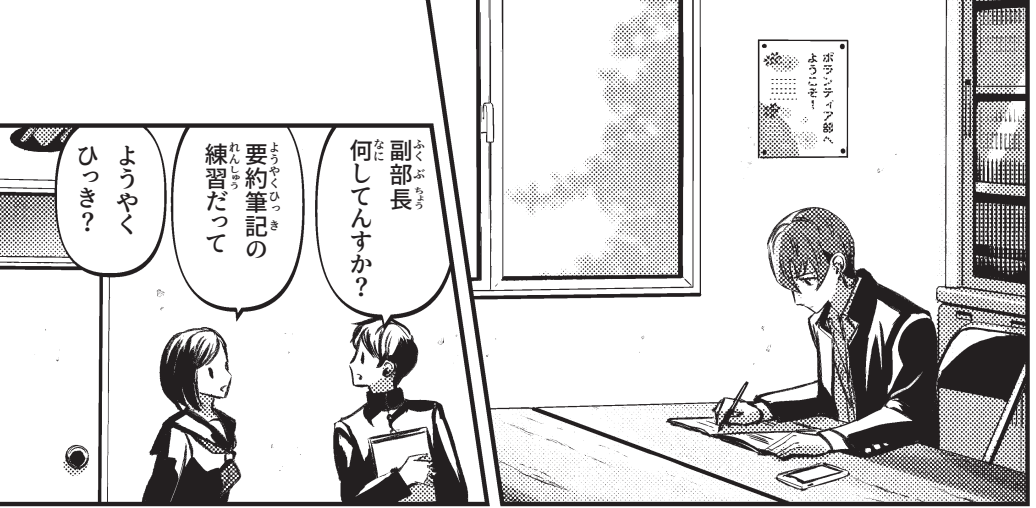
あ…



なんか
照れくさい…

あのさ…実は…



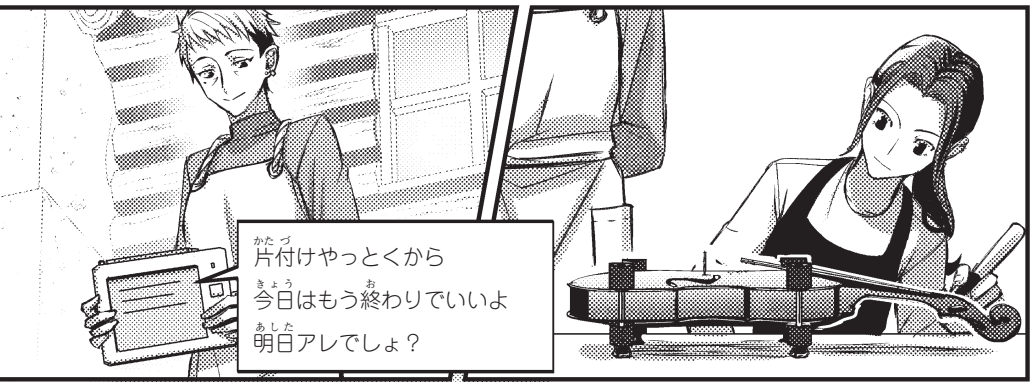
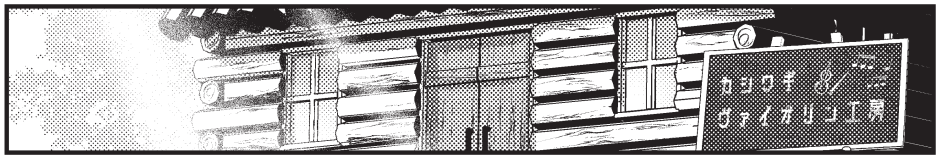


おはようございます
おはようございます
おはようございます

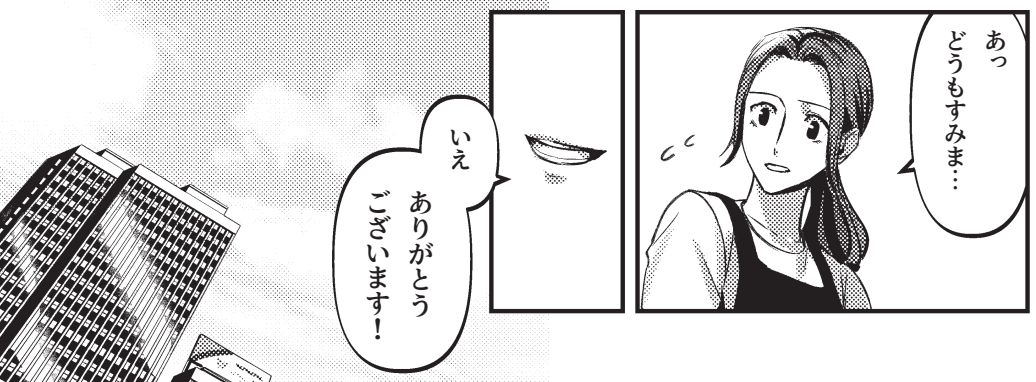
副部長
何してんすか？

要約筆記の
練習だつて

ようやく
ひびき？

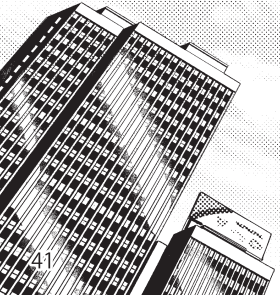


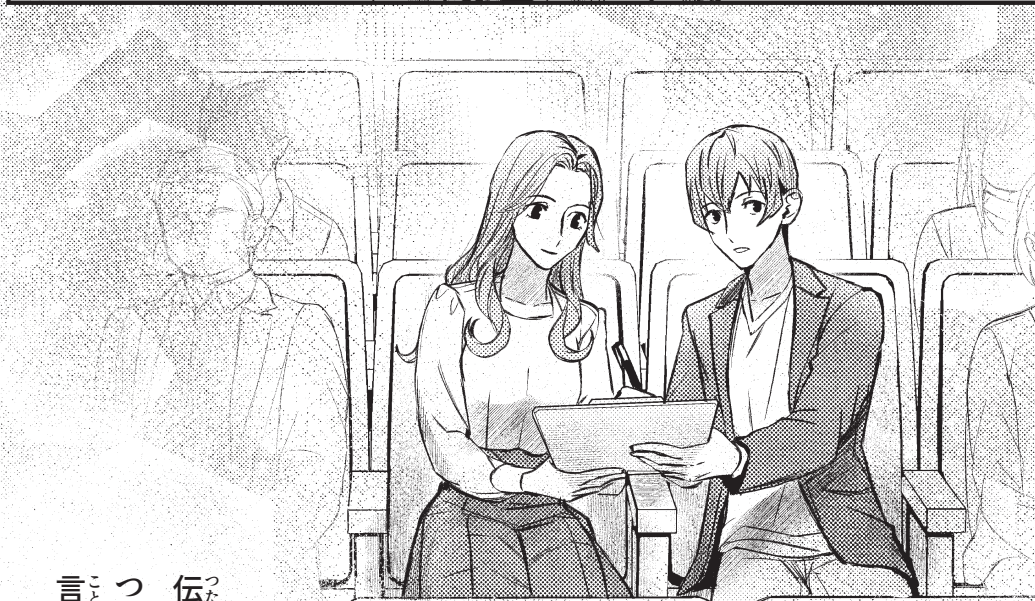
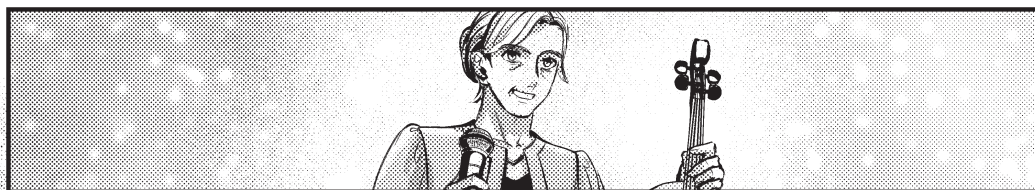
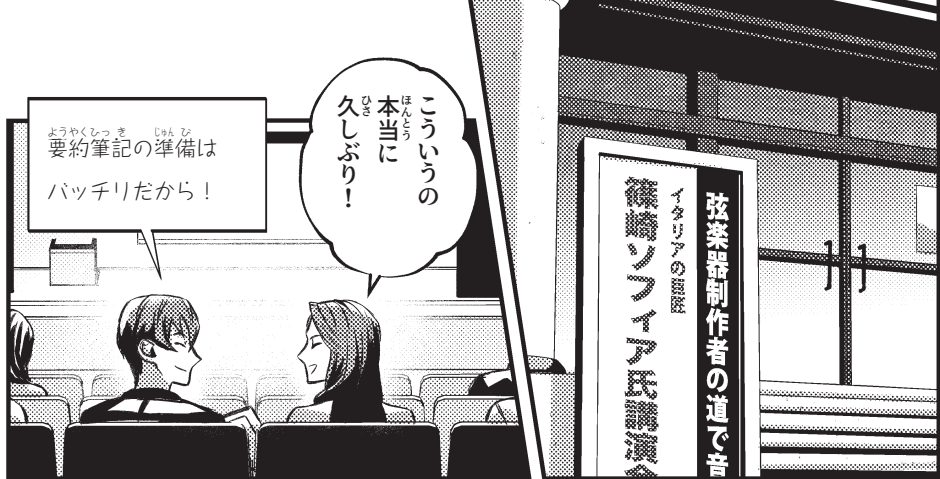
かたづ
片付けやとくから
きょう
今日はもう終わりでいいよ
あした
明日アレでしょ？



あ
どうもすみませ...

いえ
ありがとうございます！





つた
伝えて
つながる
言葉の輪

あとがき

札幌市には、障害者手帳を持っている方が約13万4千人います（令和4年3月31日時点）。これは、市民およそ15人に1人の割合です。また、障害者手帳は持っていない方も何らかの障がいのある方もいます。障がいのある方は、みなさんの身近な存在なのです。

この冊子をきっかけに、みなさんも障がいのある方のコミュニケーションについて考えてみませんか？

一人ひとりが知ること、考えることが、障がいのある方もない方も共に暮らしやすい社会に繋がります。

今回の漫画は、中途失聴・難聴がテーマでしたが、人によって障がいの状況は様々であり、また、必要な配慮も違います。

札幌市では、障がい特性に応じたコミュニケーション手段を学ぶ動画やガイドブックを作成し、市の公式ホームページで公開しています。ぜひ、ご覧ください。



障がい特性に応じたコミュニケーション手段を理解する

<https://www.city.sapporo.jp/shogaifukushi/communication/rikai.html>

札幌市 障がい特性に応じたコミュニケーション手段を理解する

検索



要約筆記者になるには

要約筆記者が誕生したのは、1960年代のことです。当時、中途失聴・難聴者の団体では仲間同士で大事な話し合いをする際に、自分たち自身で発言内容を書いた紙を回したり板書するなどとして、全員で共有できるようにしていました。そのうちにOHPを利用してスクリーンに映し出す試みが行われ、やがて、手話で聴覚障がい者の支援をしてきた人たちが代わりに聞き、話の内容をまとめながらOHPで映すようになりました。これにより話し合いがスムーズに進むようになりました。これが「要約筆記者」の誕生につながったと言われています。

その後、1973年に第1回難聴者組織推進単位地区研究協議会が京都市で開かれ、全国各地から集まった中途失聴・難聴者がOHPによる要約筆記者を見たことがきっかけとなり、要約筆記者は全国に広がっていきましました。

1981年には要約筆記者奉仕員（現在の要約筆記者）の養成事業、1985年には派遣事業が国の社会参加促進事業の一つとして開始され、このことにより要約筆記者奉仕員は全国的な集団化が進み、人数が増えていきました。

1999年には要約筆記者奉仕員の養成カリキュラムが当時の厚生省から通達され、全国共通の養成の形が明確になり、翌年2000年に要約筆記者は第二種社会福祉事業と位置づけられ

社会福祉従事者として法定化されることになりました。

そこから20年以上、要約筆記者は聴覚障がい者、特に中途失聴・難聴者の社会参加を促進するための重要なコミュニケーション支援として大事な役割を果たしてきました。近年では利用者の増加に合わせて、利用のニーズも多様化しており、要約筆記者はより専門的な対応が求められてきています。

現在、厚労省から出されている要約筆記者養成カリキュラムは、実技と講義を合わせて84時間以上（必修講義44時間、必修実技30時間、選択必修科目10時間以上）となっています。札幌市の場合だと、養成カリキュラムを修了し、毎月2月に行われる全国要約筆記者統一試験に合格すると各自自治体に要約筆記者として登録されます。

札幌市では毎年5月から12月まで週に1回、全28回の要約筆記者養成講座が行われています。手書きコースとパソコンコースがあり、それぞれ定員10名の方が受講されています。

講座は平日の昼間に行われるため、学生が受講するのは難しいのですが、近い将来、みなさんが要約筆記者になりたいと思ったら是非チャレンジしてみてください。

中途失聴・難聴者の相談機関・支援団体

支援団体

一般社団法人 札幌市中途失聴・難聴者協会

- ◆ 中途失聴者・難聴者の生活および福祉環境の向上と親睦を図ることを目的としています。また、中途失聴・難聴者、又は補聴器装着者とその支援者向けに手話講習会も開催しています。
- ◆ 所在地：札幌市西区二十四軒2条6丁目 札幌市身体障害者福祉センター内

- ◆ FAX：011-644-2628
- ◆ ホームページ：<http://nantyo-sa.sakura.ne.jp/>（札幌中失協で検索）

要約筆記者の派遣

- ◆ 対象（札幌市の場合）

市内在住の聴覚障がい者身体障害者手帳をお持ちの方

- ◆ 問い合わせ先：札幌市身体障害者福祉協会

電話：011-641-8853

FAX：011-641-8966

要約筆記者サークル「ふきのとう」

- ◆ 札幌市に登録のある要約筆記者によるサークルで、会員同士の研修会などを開催しているほか、札幌市の要約筆記者派遣事業の対象とならない行事等への要約筆記者派遣のご相談にも応じています。

◆ Eメール：fukinotousapporo_hq@yahoo.co.jp

◆ ホームページ：

<https://www.3.hp-ez.com/hp/fukinotou-sapporo/>

札幌市障がい者コミュニケーション条例について

札幌市は、障がい特性に応じたコミュニケーション手段の利用を促進し、障がいの有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現を目指し、平成29年（2017年）に、**障がい者コミュニケーション条例**を作りました。

そして、この条例にもとづき、障がいのある人がそれぞれの障がいの特性に応じた手段により情報を取得したり、コミュニケーションをしやすい環境づくりに取り組んでいきます。

条例の基本理念

障がい者がそれぞれの障がいの特性に応じた手段により情報を取得したり、コミュニケーションをしやすい環境の整備は、以下の事項を基本理念として行います。

●障がい者は、障がい者でない人と等しく基本的権利を享有する個人であり、その自発的意思が尊重されること。

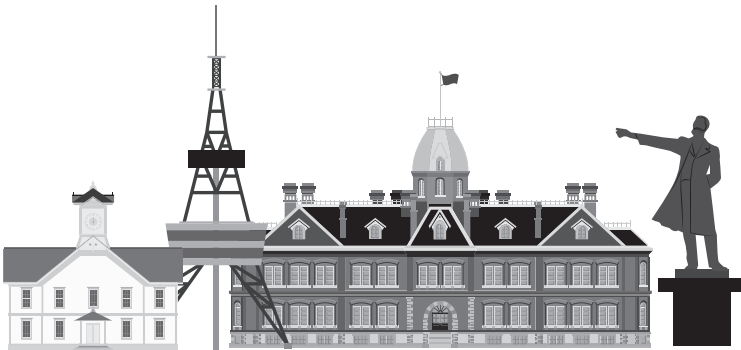
●障がい者と障がい者でない人が互いにその違いを理解し、人格と個性を尊重すること。

●障がい者が、可能な限り、情報を取得したり、コミュニケーションするための手段を自ら選択で

きること。

●障がいの有無にかかわらず、全ての市民がその利益を享受する主体であること。

●市、市民及び事業者がそれぞれの責務や役割を相互に認識し、連携して取り組むものであること。



札幌市障がい者コミュニケーション条例

https://www.city.sapporo.jp/shogaifukushi/communication/jyorei_commu.html

札幌市障がい者コミュニケーション条例



さっぽろ しじょう しつ じょうれいけいほつまん が 中途失聴・難聴編

伝えてつながる 言葉の輪

IF YOU HAVE HEARING LOSS.

れいわ ねん がつはつこう
令和5年3月発行

さっぽろ し ほけんふくしきょくしょう ほけんふくしぶしょう ふくしか
札幌市保健福祉局障がい保健福祉部障がい福祉課

まんがせいでく れいしぞ ひょうし ほんぶん しやうろうけいぞくしえん
漫画制作：礼視座 表紙・本文デザイン：就労継続支援ビルド



さっぽろ市
F04-22-2511
R4-1-174